東中

課題の解決に向けて主体的に取り組む生徒の育成

～「自発的行動力」の向上を促す指導を通して～

（２年計画の１年次）

校長　　千　葉　　誠

１．研究主題について

本校では，昨年度まで「自己実現に向けて主体的に取り組む生徒の育成」の研究主題のもと，キャリア教育や特別支援教育の視点を生かした授業づくりに取り組んできた。しかし，自ら課題を設定し，その達成に向けて取り組んでいこうとする課題設定能力や解決能力，主体的に取り組んでいこうとする姿勢を充分に育成することができなかったという課題が残った。

今年度は上記の課題を解決していくために，「自発的行動力」の向上を促す指導を取り入れることとした。「自発性」の向上を促す指導を継続して行うことを通して，他からの働きかけがなくても，自ら進んで取り組もうとする内的な欲求の高揚が見られ，さらに行動力を訓練していくことを通したスキルの向上との相互作用により，課題の解決に向けて主体的に取り組める生徒が育成できると考え，本研究主題を設定した。

尚，本研究では「自発的行動力」を，「自発的」は自分から行動を起こしていこう，起こしていきたいとする内的な欲求，「行動力」とは自ら考えたことを実行に移すことができるスキルと捉えている。

２．研究のねらい

主体的な行動力を育成するためには，課題設定やその解決も含めて生徒の内面に宿る「自分から動きたい」という欲求が大きなウェートを占めていると考える。また，効果的な目標達成をサポートするコミュニケーションの手法であるコーチングの手法を用いることによって，内的な欲求を高めていくことが可能となる。加えて，考えたことを実行に移していくトレーニングを，単発的ではなく繰り返して行う指導を通して行動力が育成され，「自発的行動力」の向上を促すことができることを検証したい。また，「自発的行動力」が身に付くことが，課題の設定や解決の能力，主体的に取り組んでいく姿勢の向上などにも繋がり，「主体的・対話的で深い学び」を実践していくための根幹となるスキルであるとも考える。

３．研究仮設

先述の通り「自発的行動力」は，「自発性」を促し，「行動力」を習得させることにより育成されるスキルである。これを身に付けさせるためには，内的な欲求の高まりを促していくことと考えたことを実行に移すことができるスキルを育成していく必要がある。「自発性」を促すために，コーチングの手法（コーチングセッション）を取り入れた指導を継続的に実践していくことが効果的であると考えた。これは，ニュートラルな状態で話を聴いてもらう（傾聴してもらう）経験が思考訓練に繋がり，自分の目的や目標の設定，行動計画，自己理解を深めていくことがいくことのきっかけとも成り得ると考える。また，「行動力」については，例えば，今できることをすぐに実行するとか実行すべきだと思うことを明確にしておくなど，習慣化させることによって身に付いていくスキルだと考える。そのためには，実際に行動に移していくための計画や留意点等を考えさせる継続的な指導をしていく必要があるとも考える。

以上のように「自発的行動力」の向上を促す指導を継続的に行っていくことにより，課題の設定や解決の能力，主体的に取り組んでいく姿勢の向上等にも繋がるものと考える。

４．研究内容

(1) コーチングについての理解を深める。

ア コーチングの定義や考え方についての理解を深める。

イ コーチングセッションのステップについての理解を深める。

(2) ９blocks を効果的に活用する。

(3) １人１台端末を効果的に活用する。

(4) 特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり

(5) ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくり

５．年間計画

(1) 研究仮設に基づく授業研究

実施していない。

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
５	１３	１人１台端末の活用について　「Ｍｅｅｔ」によるオンライン研修 講師　八戸市総合教育センター　主任指導主事　石井一二三　氏 今年度の校内研究の主題について
６	２４	コーチングについて 傾聴スキル，承認スキル，質問スキル
８	１８	コーチングについて 「コーチング」と「ティーチング」の違いについて 発達障害について 政府広報オンラインより
１０	２７	９BLOCKS（マンダラチャート）について
１１	１６	９BLOCKS（マンダラチャート）について
１	１９	校内研究のまとめ

６　研究の成果

(1) コーチングの手法（コーチングセッション）を取り入れた指導については，傾聴，承認，質問の仕方について研修を行い，今までの質問の仕方から変えていきたいなどの声が上がっていたことから，教師側がコーチングの手法を取り入れていこうとする意欲や変化が見られた。

(2) 行動力については，９blocs に全学年で取り組み，生徒自身が自らの目標を設定し，その達成のための見通しを考え，考えたことを実践していく活動を展開することができた。

７　研究の課題

(1) コーチングの手法を取り入れたことによって，生徒の「自発的行動力」を促すことができたのかについての検証が不十分である。

(2) ９blocs を用いて，生徒自身に見通しを立てさせ，ブランチ（枝）が達成できたかを判断させたが，判断基準が曖昧であるやトランク（幹）そのものの立てさせ方が重要であるなどの意見があった。

（記入者　新保　義彦）